

学校経営推進費 評価報告書（2年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立芦間高等学校
取り組む課題	授業改善への支援（生徒の学力の充実）
評価指標	1 授業アンケートと学校教育自己診断における授業理解度の向上 2 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上
計画名	生徒が活用する ICT で学力向上・授業改善 ～自分の色彩（いろ）で輝き、響きあう学びプロジェクト～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 新学習指導要領の理念を踏まえた、生徒の「確かな学力」の育成及び教員の授業力の向上</p> <p>(1) 「生徒の論理的思考力を伸ばす授業」「生徒が主体性を持って参加する授業」をめざした授業改善に取り組む。</p> <p>ア 「生徒の思考を促す授業」をキーワードに、相互見学授業や授業公開をより活性化して教員間で授業力を高め合い、また、授業アンケート結果を効果的に活用して、研究授業や研修等に組織的に取り組み、主体的、対話的で深い学びの実現をめざす。※生徒向け学校教育自己診断（設問2、3平均）における「授業理解度」（H29年度 62.9%、H30年度 58.0%、R1年度 56.3%）を令和4年度には75%以上にする。</p> <p>イ ICTの活用に取り組み、生徒の知識の定着を図るとともに生徒が課題意識を持ち自ら解決する姿勢を育てる。</p> <p>※ ICTを利用して授業を行う教員の割合令和4年度50%以上をめざす。（R1年度 46%）</p>
事業目標	<p>本校は総合学科として多彩な選択科目を有すること、オープンネットに接続できるタブレット等を一定台数整備していることやコンピューター教室を3室持っていることなどの強みがある。教員がICTを活用した授業力の向上をはかることで、生徒が主体的にICTを活用し、協働し、高めあう等、生徒自らが選択した授業での学びを高めることをめざす。</p>
整備した 設備・物品	<p>プロジェクターとマグネットスクリーンを普通教室17教室に設置</p> <p>※ プロジェクター：カシオ XJ-F211WN・書けるマグネットスクリーン：内田洋行 SM-70K・無線LANアダプター：カシオ YW-41)</p> <p>プロジェクターを共生推進教室に設置</p> <p>※ EPSON EB-1785W</p>
取組みの 主担・実施者	<p>アクティブラーニング推進委員会</p> <p>（各教科から1人。委員長は教頭。主体的・対話的で深い学びを研究・推進する委員会）</p>
本年度の 取組内容	<p>新型コロナウイルス感染症対策として、1人1台端末の導入が早まり、本校でも当初予定していたアクティブラーニング委員会から、端末導入に伴いオンラインPTを立ち上げ、校内研修を中心に行った。9月には全教員への配付を終え、10月より試行実施を経て、臨時休業時に双方向授業を実施するに至った。令和3年度に入り、次の取組みを行った。</p> <p>① 7月実施の体育祭で、保護者へのリアルタイム配信</p> <p>② 9月及び12月実施の分散文化祭におけるオンライン配信</p> <p>③ 20周年記念式典及び始・終業式のオンライン配信</p> <p>④ 各種説明会や講演のオンライン配信</p>

	<p>⑤ 平常授業におけるプロジェクター利用授業及び双方向のリアルタイム授業の実施（外部実施も含む） 令和3年度は、これらに加え毎週木曜日に10分間オンライン教員研修会を実施。</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>① 生徒向け学校教育自己診断（設問2、3平均）における「授業理解度」を70%以上 ② 2年次の外部機関の客観的学力診断テストにおける国数英学力レベルゾーン B3からの向上 ※ ICTを利用して授業を行う教員の割合60%以上 ※ 芦間高校 ICT活用モデル集の発行</p>
<p>自己評価</p>	<p>① 生徒向け学校教育自己診断において、「設問2（授業はわかりやすい）」の割合が63.2% 「設問3（習熟度別による少人数授業は、自分の理解度に合っていて、内容がよくわかるようになった）」の割合が62.7%、平均は63%となった。令和2年度とほぼ、横ばいであり、70%には届かなかった。……………（△） ② 授業アンケートにおける教員は教材（ICT等）を工夫している割合は、88.4%となった。授業理解度の向上までは結びついてはいなかったが、活用率については、60%の指標を大きく超えている。……………（◎） 学力診断テストにおける国数英の学力レベルゾーンについては、ICTを活用するだけですぐに向上することは望めず、日々の積重ねが結果として表出する傾向がある。成績が向上する者と低下する者が混在し、大幅なB3からの向上とはならなかった。…（△）</p>
<p>次年度に向けて</p>	<p>令和3年度に校内アクティブラーニング委員会を発展解消し、オンラインPTと改称して取組みを行った。次年度も継続して、「Assistive（主体性）・Active（対話的）・Adaptive（個別化）」を目標に、1人1台端末の活用を推進し、双方向性を活かしたICT活用により授業充実を図っていく。 引き続き、校内における研究授業で、先進的な授業の共有を図り、3年めの目標である 1. 生徒向け学校教育自己診断（設問2、3平均）における「授業理解度」を80%以上 2. 2年次の外部機関の客観的学力診断テストにおける国数英学力レベルゾーン B3からB2への向上 をめざして取り組んでいく。特に1については、70%以上の指標をめざす。 また、新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえながら、オンライン配信にも積極的に取り組んでいく。</p>